

栄養・代謝と炎症・免疫の接点 「イムノメタボリズム」から考える生活習慣病

Immunometabolism and lifestyle-related diseases

菅波 孝祥 先生
Takayoshi SUGANAMI, M.D., Ph.D.

名古屋大学 環境医学研究所
分子代謝医学分野 教授

2026年 **1月 9日 金** 午後 4時～
生体調節研究所 1階会議室
Friday, January 9th, 2026 16:00 ~
Gunma Univ. IMCR 1st Floor Conference Room

従来、肥満や糖尿病などの生活習慣病は代謝疾患と捉えられ、臓器全体を対象として遺伝子発現プロフィールや代謝機能、ホルモン産生能などが精力的に研究されてきた。しかしながら近年、生活習慣病は慢性炎症性疾患の一面を有することが明らかになり、慢性炎症の本態である「組織再構築」の視点で病態を捉え直す必要が出てきた。例えば脂肪組織では、過栄養により脂肪細胞の肥大化に加えて、免疫細胞の浸潤、血管新生、細胞外マトリックスの過剰などのダイナミックな組織再構築が生じ、その結果、脂肪蓄積やアディポカイン産生などの脂肪組織機能が障害されて、全身に代謝異常が拡大・波及する。一方、免疫学の領域では、免疫細胞の細胞内代謝が免疫機能に及ぼす影響が精力的に研究されている。このように栄養・代謝と炎症・免疫には密接な関係が明らかになり、免疫代謝（イムノメタボリズム）と呼ばれる研究領域が注目を集めている。我々は特に、代謝ストレスによる細胞死が炎症慢性化を惹起する分子機構に注目し、肥満、代謝機能障害関連脂肪肝炎、慢性腎臓病などに共通の病態機序を見出した。本講演では、生体レベル、臓器レベル、細胞レベルで複雑に制御されるイムノメタボリズムの実態と生活習慣病における意義について、最近の我々の研究成果を中心に議論したい。

事前予約不要。直接会場にお越しください。

No reservation is required. Please come directly to the venue.
Host : 稲垣 毅 Takeshi Inagaki (inagaki@gunma-u.ac.jp, 8880)